



### スポ振ルネサンス (3)

「心でつなぐ活動を！」  
京都障害者スポーツ振興会  
副会長 水谷 裕

今年度も早いもので、もう6月。様々な事業が始まりつつあるが、とりわけ、6月は、「全京都障害者総合スポーツ大会(以下、全京都大会)」と、今年大分県で10月11日から13日の3日間開催される「全国障害者スポーツ大会(以下、全スポ)京都府・京都市派遣選手の練習会」がスタートします。

これに先立ち、4月下旬から5月上旬にかけて京都府・京都市代表として派遣する選手の選考会が開かれ、府・市合わせて約50名の個人種目の選手が選ばれたのですが、ここ数年全京都大会に参加され、全スポへの出場を希望される方(未出場)が少なく、選抜するのに苦慮しているのが現状なのです。

そういつた状況の中、振興会のスタッフや関係者の間からは、「そろそろ、2回目の出場を認めては」という意見が出てきていますが、私は、「正直、何を言っているのか!」とあえて苦言を言いたい。全スポの出場基準が緩和され、2回目の出場を容易にし、他府県などが2回目の選手を出し始めた後も、何故、京都では永年にわたって制限をし続けてきたのか、忘れ

てしまったのだろうか。スポーツをする喜び、楽しみを知ってもらい、大会に出場することで人生観さえ変えてもらえるように、ひとりでも多くの障害のある人々に大会へ出場する機会を保つため、こだわりを持ってきたのではなかったのではありませんか?

選手選考会に出てくるデタを見ただけで、未出場で全スポを希望する人がなくなってきたと思う人は、障害のある人々の現状はおろか、振興会存在の意義や役割さえ分かっていないといえる。

希望する人が少ないと思うのなら、何故、予選会となる全京都大会の参加者を増やし、希望者増に繋げようとならないのか。黙ってても参加してくる人ばかり相手して事業をこなすだけが、振興会のやることではなく、会名の示すとおり、障害のある人々のスポーツの裾野を拡げることこそ、振興会活動の基本のひとつ。この基本を進めるための手段を講じることが、忘れて、短絡的な発想に陥っていないのを見ると、振興会を築きあげてきたひとりとして、発足以来、スタッフ達に何を伝えてきたのだろうか。

思うと、胸に痛みを憶える。平成19年度末の府・市の身体に障害のある人の数は132666人、そして、知的に障害のある人の数は17909人で、合わせると150575人となる。この数から見て、大会どころかスポーツにさえ、まだ関わっていない潜在的選手が多くいるといえ、これらの選手の掘り起こす手段を講じないで結論を出そうとするのは、まったく本末転倒の話である。専門委員会や部会は、事業をこなすためのポジションではないはずだ。

選考会で気になることを、もうひとつ。支援学校の在校生や卒業生を選手として選ぶ時のこと。私も支援学校の卒業生だから、同じ立場ならと考え、時には憤りさえ憶えます。

選手として3年生の子が選ばれると、実習があるからといって断る先生方。実習がある時期は毎年同じで、前年から分かってはいるはず。なのに全スポ出場を希望するに印を付けさせるのでしようか。当然、指導をされて申し込んでいるはず。自分が選手として選ばれたのに、知らないうちに断られた生徒の立場になって考えたことはあるのでしょうか?

また、卒業して就職1年目の人が選ばれると、本人などに確認することなく、先生が断られるのです。傍から聞いてみると、せつかく就職させたのに、全スポ出場のために、週間も休ませたら、その後の就職活動に悪影響を及ぼすのでは困るといふ思惑を感じてならないのです。

何故、その人を全スポに出場させることによって好影響を与え、生活などにも変化をもたらし得るといふことを説き、雇用主に理解を求めようとするのでしようか?昔ならともかく、現在は企業なども自社の障害のあるアスリートを応援して、くれる時代が変わってきているのです。

私たちは、スポーツを通じて、障害のある人々の生活に変化を求めするための環境の整備をこれからも進めて行きたいのですが、スポーツであつても、単に記録だけから評価し、選んだりするのでなく、選ぶことによってその人がどう変わり、どう周囲に影響を与えられるようになるかなどを推察しながら、その人の身になって考えることを忘れないようにしたいものです。

### 京都フライングディスク協会

設立記念大会結果  
(各組一位のみ掲載)

#### アキュラシー競技(5メートル)

|     |       |              |
|-----|-------|--------------|
| 1組  | 赤井 千磨 | 洛南会館         |
| 2組  | 高谷 博  | 洛南会館         |
| 3組  | 中村 周作 | 福知山市         |
| 4組  | 桐村 伸之 | 福知山市         |
| 5組  | 佐橋 知子 | 洛南会館         |
| 6組  | 高谷 洋子 | 洛南会館         |
| 7組  | 山崎 嘉子 | 木津川市         |
| 8組  | 喜茶 伸之 | 東総合          |
| 9組  | 人見 榮  | 南丹市          |
| 10組 | 伊崎 正夫 | 宇治市          |
| 11組 | 羽野 力  | 宇治市          |
| 12組 | 森田 隆夫 | 亀岡市          |
| 13組 | 山本千賀子 | 京丹波町<br>山科会館 |

#### ディスク競技(男子立位)

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1組 | 中野 伸之 | 東山区  |
| 2組 | 土橋 洋之 | 福知山市 |
| 3組 | 喜茶 伸之 | 東総合  |
| 4組 | 向井 三夫 | 亀岡市  |
| 5組 | 赤井 千磨 | 洛南会館 |
| 6組 | 山上 文二 | 宇治市  |
| 7組 | 吉田 清  | 京丹波町 |

#### ディスク競技(男子座位)

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 1組 | 大槻 浩二 | 福知山市 |
|----|-------|------|

#### ディスク競技(女子立位)

|    |        |      |
|----|--------|------|
| 1組 | 馬場 先里美 | 長岡京市 |
| 2組 | 本多 八重乃 | 福知山市 |
| 3組 | 小林 町子  | 木津川市 |
| 4組 | 清水 久子  | 洛南会館 |
| 5組 | 山崎 嘉子  | 木津川市 |

#### ディスク競技(女子座位)

|    |        |     |
|----|--------|-----|
| 1組 | 池田 亜優美 | 滋賀県 |
|----|--------|-----|

### 平成一九年度 日本障害者スポーツ協会 会長表彰

- 特別表彰 内山茂生前会長
- 功劳賞 長谷川尚三理事

#### 第十八回全京都障害者総合スポーツ大会日程

|          |               |                   |
|----------|---------------|-------------------|
| 卓球バレー大会  | 平成20年6月15日(日) | 京都府立体育館           |
| 卓球大会     | 平成20年7月20日(日) | 京都市障害者スポーツセンター    |
| 水泳大会     | 平成20年8月24日(日) | 京都市西京極総合運動公園陸上競技場 |
| 陸上競技大会   | 平成20年9月15日(祝) | 京都市西京極総合運動公園陸上競技場 |
| アーチェリー大会 | 平成20年9月28日(日) | 南丹市日吉総合運動広場       |